バードウォッチング

≪湖の鳥編≫



ながさきしかがくかん 長崎市科学館 2024.2.25(日) 川原大池

アオサギ(サギ科)



たんすい かぎ うみべ にも するます。 淡水に限らず、海辺にも棲みます。 せが高く大型の鳥です。オスは頭の うし かざ なが 長いのが特徴です。

をいあしをいかして水辺に立ち、小 ざかな 魚 やエビ、カエル等の生き物を捕ま えて食べますが、身体が濡れるのは、 嫌いなようです。

水辺の鳥ですが、木の上に巣を作ります。昔の日本画には、松の木に鶴がとまっている様子を描いた絵がありますが、どうやらアオサギ等のサギの仲間と勘違いして描いたようです。

オオバン (クイナ科)



モノトーン・コーデのおしゃれな姿をしていて、「キュイー」「キュルキュル」と鳴きます。

あしには水搔きが無く、代わりに葉の様な形をしています。

最近、日本中で数が増えており、川原大池でも、良く見られます。割と近くを泳いでいる事が多く、簡単にみりけられます。人が近づくと、こちらをチラチラ見ながらスイスイ逃げる様子は、ユーモラスです。

カイツブリ(カイツブリ科)



カモに似ていますが、カモの仲間ではありません。 たのカモ類と比べると、体の大きさは半分位です。 あしが尾の近くに付いているので、歩くのは苦手ですが、潜るのはとても上手で、魚やエビ、カニ、水生昆 ちゅうなど とがまっかまえて食べます。

「キュルルルル・・・」とさえずる声が聞こえてきます。

か カンムリカイツブリ(カイツブリ科)



カイツブリの仲間では、日本最大です。

るゆ くびまわ しろ 冬は首回りが白くすっきりしていますが、夏は茶色 のマフラーをしている様に見えます。

オスもメスも同じ色なので、見た目では区別が付きません。

青森県の下北半島や滋賀県の琵琶湖等では子育でをする事があり、親鳥の背中に縞模様の可愛い雛を乗せて運んでいる姿が見られる事があるそうです。水に潜るのが得意で、魚やエビ・カニ等を上手に

っか 捕まえて食べます。

キンクロハジロ(カモ科)



パンダの様な白黒ボディーは、オスの特徴です。また、頭の後ろにポニーテールの様な飾り羽(冠羽)が付いているのも特徴です。

この特徴を基に、金色の目で黒い体でつばさの先が白いカモという意味の名前が付けられました。とは言え、オスのエクリプスや幼ょう まな よう いろ 鳥はメスと同じ様な色をしています。長崎では冬鳥です。

メートル いじょう みず もぐ みずくさ かい た ざっしょく 10 m 以上も水に潜って水草や貝、エビ等を食べる雑食のカ よる かっぱつ うご えさ さが そです。夜になると、活発に動いて餌を探します。

※エクリプスとは・・・繁殖期ではない時期のオスの羽の状態のこと この時期はメスに選ばれる必要がないため地味な色になる

カルガモ(カモ科)



まちなか みずべ 街中の水辺でも、良く見掛けます。

オスとメスは良く似ています。くちばしの先の黄色い部分の形や、背中の羽毛の白い縁取り等、僅かな違いでしか見かけられない鳥です。

 みずべ くさむら なか たまご う
 なか たまご う
 なか たまご う
 なか いけ かわなど えさ と

 水辺の 叢 の中に 卵 を産み、近くの池や川等で餌を捕る

 ため ば し ひっこ すがた 為に、母子で引越しをする 姿 がよく知られています。

えさ みずくさ かい など ほか りくじょう しょくぶつなど た 餌は、水草や貝、エビ等の他、陸上の植物等も食べます。

オシドリ(カモ科)



長崎県の鳥になっていて、ガンバくん・ランバちゃんのモデルです。

今の時期、オスはお洒落な格好をしています。

メスはオスよりも圧倒的に数が少ないので、オスは必死にパートナーを守ろうとします。その姿を見て、『おしどり夫婦』という言葉が生まれたそうです。

大木の幹の高い場所の穴に、巣を作ります。そこから飛び ないしないしょりしれん 降りるのが、雛の最初の試練です。

くさ たね こんちゅう ほか あき 草の種や昆虫の他、秋にはドングリも食べます。

その他の鳥達

~見る事が出来る**かも**?!~

ヒドリガモ(カモ科)

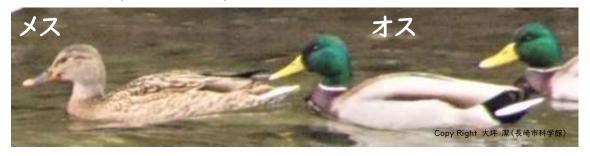


ホシハジロ(カモ科)





マガモ(カモ科)



ハシビロガモ(カモ科)



オナガガモ(カモ科)

